



高さ280 巾732

井川 惺亮 作品

長崎総合科学大学 Free Space 「アゴラ」

1985

◇ カラー図版（前ページ）

展覧会：Festival d'Arts Plastiques du LOT. 企画・主催：Centre lotois d'arts contemporains.
会場：Château de CASTELNAU 会期：1985年7月1日～8月31日
Bretenoux, FRANCE (カステルノ城) 発表者：井川 惺亮

普通、絵画の作品を飾る壁画空間は垂直である。ところが、本展のこのカステルノ城（註1）の展示空間は、石の文化による建築のもっとも典型的な構造空間、すなわちアーチ型（蒲鉾型）の壁面である。この壁面空間と私の作品（画面の表裏に着彩した絵画作品）が最大限に活用出来る絵画空間としての調和を見ることが今回の課題となった。（註2）。

◇ 白黒図版（本ページ）

展覧会：個展 企画・主催：長崎総合科学大学
会場：長崎総合科学大学 会期：10月14日～21日 '85
Free Space 「アゴラ」 発表者：井川 惺亮

このギャラリーの大きな窓から（註3）から網場や橘湾の風景がとても美しく感じ、その出会いを私の課題を通して作品化して試みたのが今回の発表である。着彩した枝切れ（註4）を窓枠やその周辺に任意に飾りつけることによって、窓外の木々の枝と同化させることになり、風景はギャラリー内の空間にとけ込み、窓としての絵となる。他方、これらの窓とほぼ同じスケールの大きさの壁面が直角に左側にあり、そこに画面の表裏に着彩した作品をとり付け、絵画としての窓を作ってみた（註5）。そして、この作品は真向いの窓ガラスに反射して外界の空間へと働きかけ無限の広がりを見せる（註6）。

- （註1） この城は南フランス西方、ドルドニュの谷間に広がる田園風景の丘にそびえる11世紀に建てられたもので、現在、城そのものの建築と中世美術の美術館となっている。
- （註2） 月刊誌「絵とおしゃべり」10月号、山下画廊発行 フェスティヴァル＝南フランスの拙文、朝日新聞8月21日付、南仏の古城の芸術祭の記事等を参照。
- （註3） これらの窓の大きさは幅、360cmが2つ並んでいる。
- （註4） 枝に着彩しはじめたのは梅の木のトゲが足に刺さったことも動機になっている。
- （註5） 本ページの上の白黒図版（作品写真）がそれである。
- （註6） 長崎新聞10月18日付、井川惺亮個展一実像と虚像の交錯一、読売新聞10月15日付、井川惺亮個展記事等を参照。